

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 4日から6日にかけて、太平洋高気圧が西日本や東シナ海に張り出し、高気圧の縁に沿って湿った空気が北日本や東日本に流れ込む。また、5日にかけて低気圧がオホーツク海を進み、北日本を気圧の谷が通過する。
- 7日から8日は、太平洋高気圧が本州付近を広く覆う。

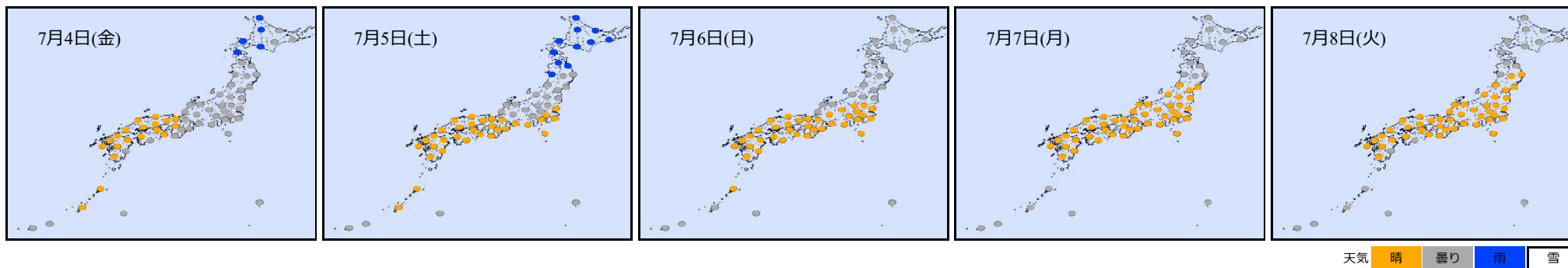
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 全国的に気温がかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある見込み。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

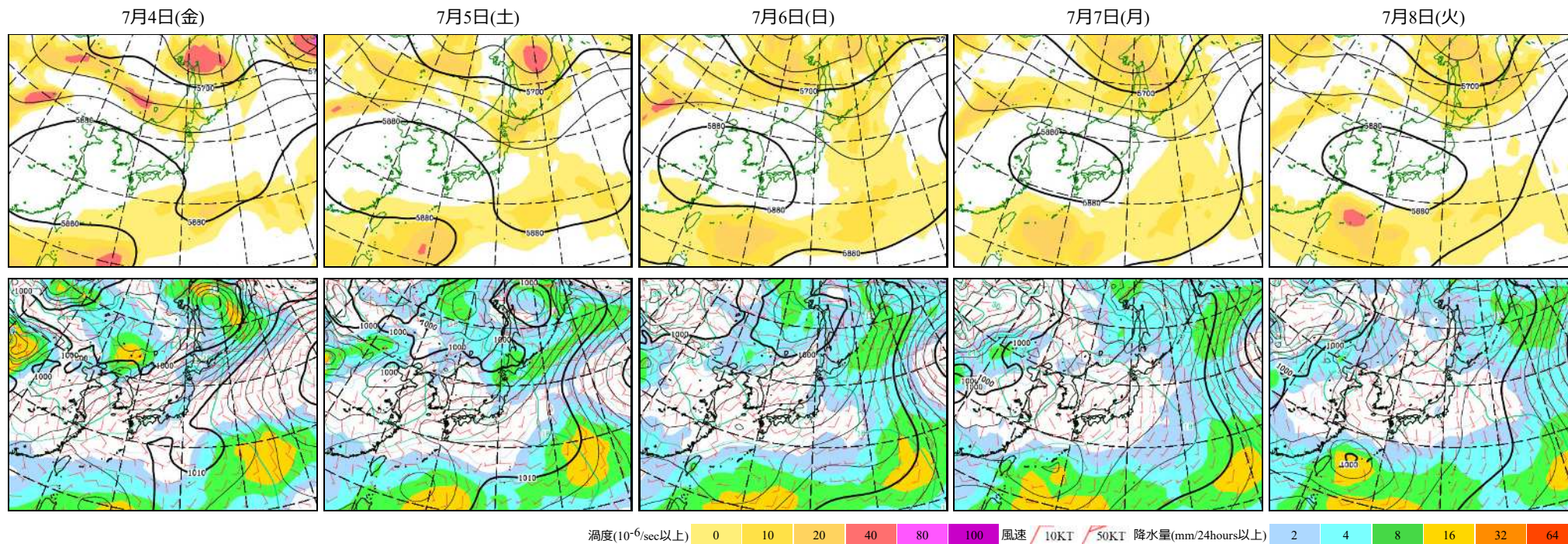
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

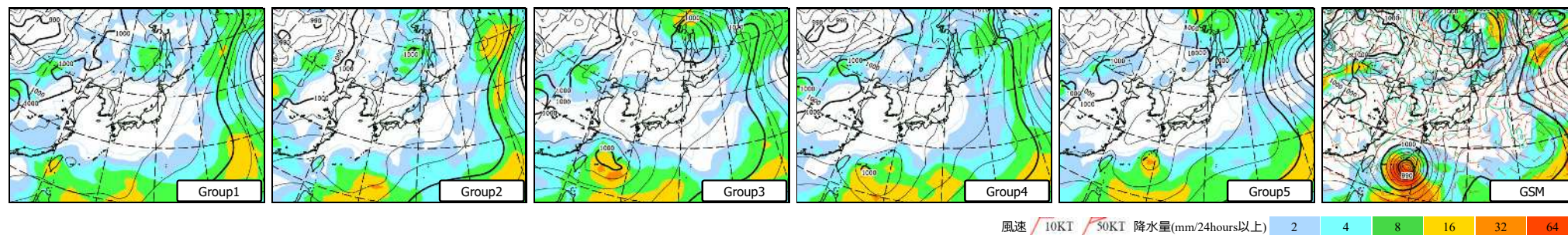


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多い。7日以降は晴れる所もある。
- 東日本は、4日と5日は雲が広がりやすい。6日から8日にかけては晴れる所が多い。
- 西日本は、晴れる日が続く。
- 沖縄・奄美は、晴れる所もあるが、雲が広がりやすい。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月7日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、大きな初期値変わりはない。
- GSM、ECM、NCEPは5日頃までは初期値変わりは小さい。6日以降はアムール川中流付近を進むトラフの予想に初期値変わりがあるが、モデル間の差は小さくなった。
- GSMは、7日に熱帯じょう乱を沖縄の南に予想するが、海外モデルとの差が大きい。ENSはGSMに近い予想のメンバーが多いが、発達や進みにバラツキがある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。
- ENS平均では、7日から8日にかけて先島諸島付近に熱帯じょう乱が進む予想となっているが、海外モデルとの差が大きい。熱帯じょう乱が先島諸島付近に進む予想はサブシナリオとして考える。